学 校 だ よ り

津市立櫛形小学校
R4.10.25発行
第１０号文責：校長

いよいよ土曜日、♫くしがたコンサート♫　開催です

朝夕と日中の気温差が大きくなり、季節の移り変わりを感じるこの頃です。

さて、今週末の土曜日は、いよいよ「くしがたコンサート」の本番を迎えます。今年度も“歌でつながろう・ひびき合おう”を合言葉に、心をこめて音楽で表現しようと、低学年合唱、高学年合唱、全校合唱の練習に取り組んでいます。

私が櫛形小学校に赴任して、初めて子どもたちが歌う校歌を聞いた時、透き通った歌声に驚いたことを思い出します。

４年生以上の子どもたちは、たくさんの方々の前で歌う「くしがたコンサート」や、三重県総合文化センター大ホールでの「津市連合音楽会」を経験しています。今までの経験から、練習はしんどいけれど、練習を重ねるごとに、きれいな声で歌えるようになることに喜びを感じ、本番に向けて「聴いてもらう方の心に響く歌声を届けたい」と、めあてをもって取り組んでいます。

３年生以下の子どもたちは、コロナ禍であったため、今年度が初めて保護者の方々の前で歌う「くしがたコンサート」となります。歌が好きな子どもが多く、高学年のように上手に歌いたいと一生懸命に練習に取り組んでいる子どもの姿に感動します。はじめは歌で表現することに抵抗があった子どもたちも、曲が仕上がってくるにつれて練習態度に真剣さが増してきています。

「くしがたコンサート」が、友だちと声を合わせて「歌う楽しさ」や友だちの歌を「聴く楽しさ」練習はしんどかったけれど「頑張って良かった」と感じる場になってほしいと強く願っています。

そこで、保護者の方にお願いがあります。参観後「くしがたコンサートの感想」用紙の提出をよろしくお願いいたします。参観していただいた方々の声を子どもたちに届けることで、子どもたちがさらに達成感を感じ、これからの励みに、そして自分への自信に繋げていってほしいと願うからです。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

くしがたコンサート にむけて　～4年生の作文より～

ぼくは、くし形コンサートで、がんばりたいことは、3つあります。

一つ目は、さいしょのことばは、はきはきとうたうです。じしんをだして大きな声ではきはきと歌います。

二つ目は、ソプラノにつられないようにしたいことです。いっぱいれんしゅうしてつられないように歌います。

三つ目は、きいている人たちをたのしい気持ちにしたり先生がいっていたように、じんとさせたりしてはくしゅをもらいたいから、練習は、ほんばんのように、ほんばんは、練習のようにれん習でいい せいかをだして、きいている人に、はずかしくないように がんばりたいです。楽しみにしていることは、くし形コンサートです。みんなで、がんばってがんばりますのほしようします。

スゴイ!!

Fight!!

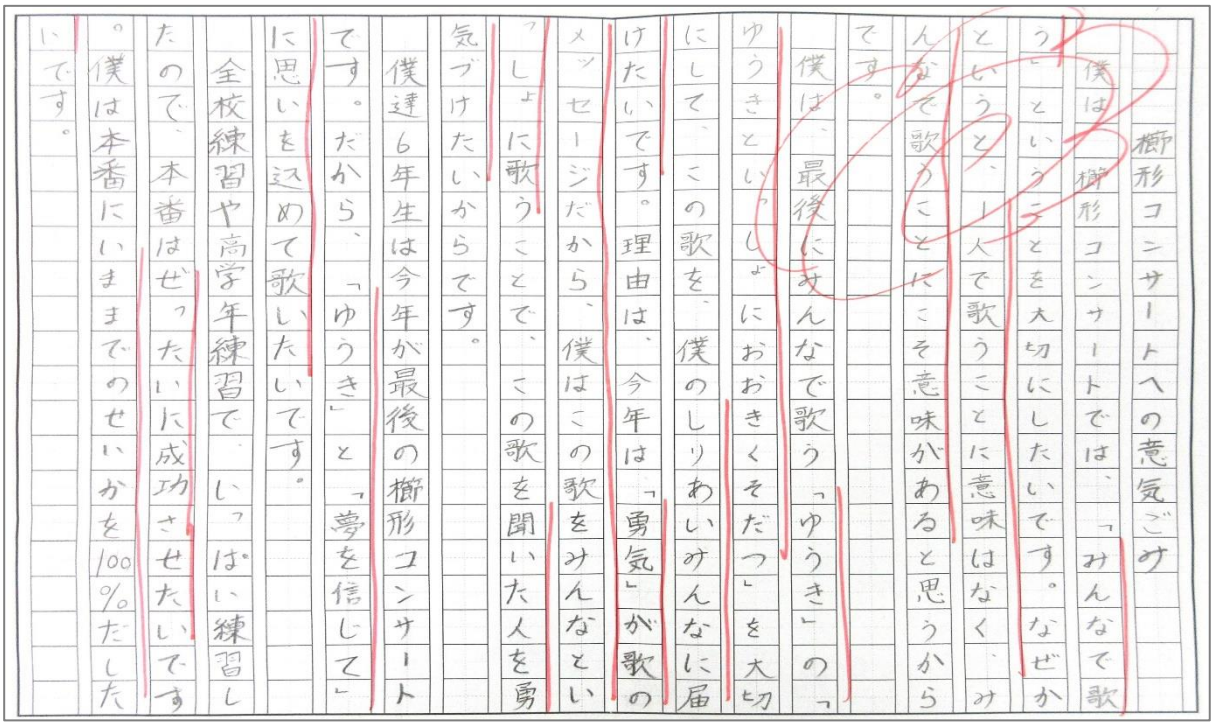
こんなに熱い思いをもって練習に臨んでいたことに驚かされました。

改めて子どもたちの意気込みを感じます。

この気持ちが歌にのって、聴いている方に届きますように。

くしがたコンサート にむけて　～6年生の作文より～

全校練習の最初に、その日の練習担当の６年生が「今日の練習のめあて」を発表しています。やらされているのではなく、自分たちで目標をもって練習に臨む姿勢は、まさしく新学習指導要領に示されている「主体的な学び」につながる姿です。このように様々な行事を通した経験が、子どもたちに「生きる力」を育んでいきます。最後列の高学年から響く歌声が、みんなの歌を包み込んでくれます。５年生児童が「隣の６年生が上手だから、自分はとても歌いやすいです」と話してくれました。「来年は、あなたたちがリードしていってね」と伝えました。このように受け継がれてきて、今の６年生の姿があるのだと思います。最後に「くしがたコンサート」に懸ける６年生の思いが溢れ出ている作文を紹介します。



櫛形コンサートへの意気ごみ

僕は櫛形コンサートでは、「みんなで歌う」ということを大切にしたいです。なぜかというと、一人で歌うことに意味はなく、みんなで歌うことにこそ意味があると思うからです。

僕は、最後にみんなで歌う「ゆうき」の「ゆうきとしゃしょにおおきくそだつ」を大切にして、この歌を、僕のしりあいみんなに届けたいです。理由は、今年は「勇気」が歌のメッセージだから、僕はこの歌をみんなといっしょに歌うことで、この歌を聞いた人を勇気づけたいからです。

僕達6年生は今年が最後の櫛形コンサートです。だから、「ゆうき」と「夢を信じて」に思いを込めて歌いたいです。

全校練習や高学年練習で、いっぱい練習したので、本番はぜったいに成功させたいです。僕は本番にいままでのせいかを100%だしたいです。

くしがたコンサートへの意気ごみ

私は、自分の歌声を聞き、となりの歌声を聞き、ソプラノ、アルトどちらかの歌声を聞きながら歌う」を大切にしたいです。それに十で自分の苦手なところに気をつけながら、聞いている人に歌詞の意味、その歌詞の気持ちをこめて歌いたいです。

「青空へのぼろう」の場合は、明るい気持ちなので軽やかに歌いたいです。特に二番目はつかれてくるのでそれにも負けないように歌いたいです。

「ゆうき」の場合は、アルトとソプラノが別れて「つつまれた」の最初の「つ」を強すぎずに歌いたいです。田米先生が言っていたようにサビ、もりあがるところの強弱を大切に歌いたいです。

今年で最後なので今まで練習してきたことを出し切って、最後歌っている私たち自分自身が納得できるようなステキなくしがたコンサートにしたいです。

♫あたたかいご声援、よろしくお願いいたします♫